

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 下松・八尋・松岡)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバはしかけ
 (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
 (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
 (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会 (26) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 … 387人

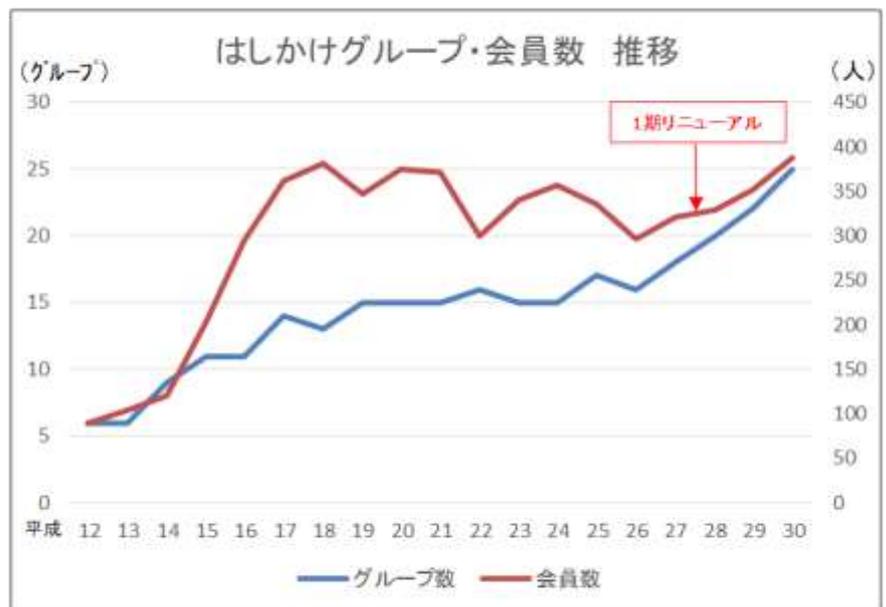
グループ数 26グループ

(2019年6月1日現在)

1. 事務局からのお知らせ

昨年度より引き続き、はしかけ制度全般を担当いたします、交流係の下松です。1年間、よろしくお願いいたします。昨年度の本誌6-7月号に引き続き、近年のはしかけの傾向について申し上げます。昨年度の本誌6-7月号で、5年前のはしかけ15グループから22グループに増え、会員数も、ここ数年間、右肩あがりに増えていることをお伝えしましたが、この1年間も同様の傾向にあり、現在のグループ数は26にまで増え、会員数も6月1日現在で387名と過去最高を更新することとなりました(下図参照)。

右グラフからも明らかなように、開館当初よりはしかけ会員は急増し、平成17年～21年にかけてピークを向かえましたが、その後緩やかな減少傾向の後、第1期リニューアルの頃より増加に転じています。グループ数も以前の倍近くに増え、活動が多様化していることもわかります。これもリニューアル効果でもあり、会員の皆様の好奇心や活動意欲を反映したものだと思います。今後も、はしかけ制度の内容をより充実したものとするべく、鋭意努めてまいります。



(下松 孝秀)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 50名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■ 3月31日(日) うおの会総会 場所: 琵琶湖博物館会議室 参加者 26名

桜のつぼみもほころび始め、そろそろ魚釣りに行きたい、うおの会の手良村です。2019年3月31日、平成最後のうおの会運営会議と2019年度総会の報告です。午前中はうおの会運営委員会を開催しました。出席は11名、2019年度の調査方針や調査計画を審議しました。

午後の総会の出席者は26名、会員64名の4割と少なめでしたが、慎重に検討していただきました。総会の議案は、平成30年度(2018年度)の活動報告、会計報告、2019年度の活動方針検討、調査地点の検討と続きました。どれも質問・意見もなく、提案通りとなりました。2019年度の調査は、4月 信楽川、5月 草野川、6月 西の湖・大中調査、7月 千丈川、8月 チャネルキャットフィッシュ調査、9月 野洲川、10月 姉川、11月 大津市街地の河川、12月 守山～草津市周辺水路、1月・2月 勉強会、3月 総会(最終日曜日)と決まりました。2019年度は、昨年同様に河川単位での魚類相データの収集に加え、DNAを用いたアブラハヤ、タカハヤの分布調査に協力し、2005年に発行したうおの会報告書の新版に取り組むことが決まりました。皆さん、うおの会の思い出をしっかりと報告として残してくださいね。総会後は、恒例の写真による活動の振り返り。みなさん良い顔で調査をされていました。2019年度も楽しく調査ができるようによろしく願います。

次に、北野大輔氏の「淡海生物研究会」会誌への調査協力です。地域の生き物をまとめた情報誌としての発行を目指されています。皆様協力をお願いします。最後は恒例?の副会長高田氏のサワガニ報告。ニューアイテムのサムライブルー号(カヤック)を投入され、ますます調査に熱が入る素晴らしい調査報告でした。詳細はうおの会調査後に、時間に余裕をもって尋ねてみてください。(報告: 手良村知央)

■ 4月21日(日) 第141回定例調査 場所: 信楽川、大石川 参加者: 24名

本年度最初の調査は、ぽかぽかと暖かい調査日和でした。翌朝鏡を見たらほんの少し日焼けしたような・・・。(本年初日焼けです。)参加人数も24人と多く、高校生5人を含めたくさんの若者も参加してくれました。

最初に学芸員の田畑さんより、調査でタカハヤ、アブラハヤが見つかったらDNA分析用サンプルの固定をしてほしいとの依頼があり、固定法についての説明がありました。調査は信楽川と大石川で合計4班に分かれて行い、18魚種が確認できました。ほとんどの川で、うおの会定例調査で確認魚種上位のヨシノボリ類、カワムツがみられました。上流ではタカハヤ・アブラハヤもみられサンプルの固定をしました。ただ、タカハヤ・アブラハヤ両者の違いが微妙な個体も多く、各班同定に苦労したようです。DNA分析の結果が楽しみです。(報告: 水戸基博)

【活動予定】

■ 6月16日 第143回調査 西の湖周辺

■ 7月21日 第144回調査 千丈川、多羅川、国分川

【会員更新について】

■うおの会では、はしかけ登録以外に、年度ごとに会員登録用紙の提出をお願いしています。まだの方は、うおの会Webサイトからダウンロードできるので、記入の上、運営委員に手渡し、下記アドレスまで送付して下さい。

hashi-uonokai@biwahaku.jp

【活動報告】

■ 5月12日(日) 場所：甲賀市甲南町 参加者：3名

甲賀准四国 22 番札所 甲南町竜法師の嶺南寺を再訪

旧竜池村竜法師の嶺南寺を再訪し大正元年建立の甲賀准四国 22 番札所の見事な石碑を確認。ここは神亀 2 年 (725 年) 良弁の開基と伝わる天台宗の古刹で、本尊の木造地藏菩薩坐像は鎌倉時代の作で国の重要文化財の指定を受けている。隣には天満宮と地藏堂があり神仏習合の痕跡が今も残る。老朽化の進む地藏堂には現在、十一面観音が安置されているが天井格子に描かれた花は見事である。正面には大峰山や四国八十八か所巡礼、西国三十三所の

木札も多数打ち付けられていて信仰の深さを感じられる。また、側面の再建寄進者木札の中に甲賀准四国創設者の家系の名前を発見することができた。そして、松尾芭蕉の「秋やまに あら山伏の 祈るこえ」の句碑も建立されている。背面には伊賀街道竜法師陣は山伏の里と前書きがあって「山陰は 山伏村の ひとかまえ」の句も添えられている。甲賀忍者にも繋がる竜法師や磯尾の山伏の歴史は非常に興味深いものがある。



甲賀准四国 22 番札所の石碑 (大正元年)



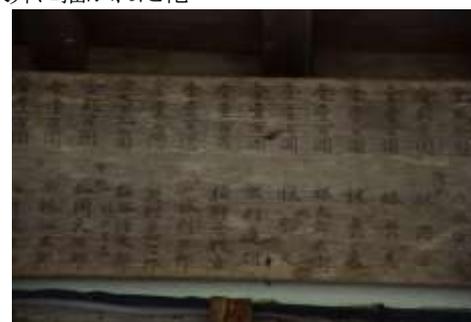
天満宮と地藏堂



十一面観音立像と天井に描かれた花



大峰、西国、四国巡礼の木札と寄進者が書かれた木



芭蕉句碑と再建された嶺南寺本堂

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・石碑の現存する53ヶ寺の拓本採集を進める。
- ・琵琶湖博物館でのパネル展示に向けた準備を進める。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永一宏

【活動報告】

- 3月24日(日) 場所: 水口周辺 参加者: 2名
近江鉄道水口石橋駅周辺をそれぞれスケッチする。
- 4月20日(日) 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 1名
博物館内のオープンラボで蝶などをスケッチする。

【活動予定】

- 5月26日(日) 場所: 浜大津
浜大津付近で港の風景などをスケッチの予定です。
- 6月23日(日) 場所: 大津湖岸さぎさ公園
ドイツ風レストランの周辺で湖岸や建物をスケッチします。
- 7月28日(日) 場所: 琵琶湖博物館
館内のオープンラボで剥製等のスケッチをします。
集合場所および集合時間は、後日、参加者にご連絡します。
※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

- 3月23日(土) 参加者: 4名
地機の機織り、各自作業など。
- 4月13日(土) 参加者: 2名
今年のはしかけオープンハウスで、パラグアイの伝統的な刺繍・ニャンドゥティができないかと試作を開始しました。ニャンドゥティは布に円形にタテ糸を張って、その間を上、下と交互にヨコ糸を通していく刺繍のような、織物のようなものです。とりあえず、今回は刺繍枠を製作するところから始めました。
- 4月24日(水) 参加者: 2名
前回作成した枠を使って、ニャンドゥティの練習を開始。枠に布をピンと張るのが一番難しいですが、これができないと次の経糸を円形に張る工程がうまくいかないので、緊張します。
- 5月11日(土) 参加者: 5名
ニャンドゥティ試作の続き。単純な渦巻き模様だと、初めてでもできそうでした。あとは枠か枠に代わるものを人数分準備できるかが課題となってきました。

【活動予定】

- 織姫の会
6月8日(土)、26日(水)、7月6日(土)、24日(水)
8月はお休みです。

(辻川智代)



【活動報告】

■ 3月23日(土) 参加者: 9名

3月の活動は野外調査の円滑化から例年、遅い時期に行う。3月の報告に乗せることが出来なかったので本報で述べる。本調査は昨年に計画したが台風21号の影響で倒木が多発し調査ができなかった。本地域の岩石は主に前期・中期ジュラ紀であり、音羽山の中期・後期ジュラ紀より古い。

1. 目的 : (1)大津より古い岩と、(2)大津には見られない鞍馬石や枕状溶岩等の調査をすることにより、岩石の時間変化、広範囲な種類の岩の知見を得ること。

2. 場所・案内者: 京都市左京区の鞍馬・貴船地域。案内者: 三上さん

3. 調査の概要 :

(1) 当日はこの冬最後の寒波の襲来で、降雨、風、寒さの予報もあったが、予想より弱く、雨もなく、三上さんの優れた企画と案内で春浅い鞍馬・貴船の実に多様な岩石の調査が出来た。また、義経などの歴史も少し勉強できた。いつものように、皆さん、三上さんや中野さんに活発な質問をした。

(2) 野外に出るとその多様さにいつも驚く。今回も岩石に加え、長い経年の年輪が見える夥しい風倒木があった。至る所に驚きがあった調査であった。

(3) 大津の岩石調査隊が発足した一つのきっかけは、20130915-16に滋賀県等を襲った台風18号で大津の河川が氾濫したことである。台風18号は滋賀を襲った水害としては約100年ぶりと言われている。今回の鞍馬の巨木の倒壊を見て、台風21号は風害としてはそれよりきつそうに感じた。

4. 驚いた岩石

・赤白珪石(塊状チャート) : チャートというと、層状のものが普通である。鞍馬のこの物は通常の生物由来とは異なり、無機的作用で作られるとのこと。石英部分が大きい。

・緑色岩(枕状溶岩) : 海に溶岩が流れ込んで、表層はガラス化するが内部は結晶化する。

・石灰岩 : 幾つかの場所で石灰岩があり、化石も見えた。皆さん、この場所で色んな化石の写真を撮られたものと思います。



Fig-1 塊状チャート (梅澤撮影)

■ 4月の野外調査

4/24に予定した「野洲花こう岩体」の調査は雨天のため、6/5に延期しました。

【活動予定】

- ① 5月25日(土)に、摂津峡周辺の地層や岩石の調査を予定しています。
- ② 6月6日(水)に「野洲花こう岩体」の調査を予定しています。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■ 4月20日(土) おでかけ撮影会 ～日野町鎌掛シャクナゲ群落～ 参加者: 7名

昨年行くことができなかった日野町鎌掛のシャクナゲ群落の撮影にリベンジしてきました。残念ながらシャクナゲは今年あまり咲いていませんでしたが、初夏の散策を楽しむことができました。またその後、桜の名所で知られる土山町鮎川のうぐいす川にも行き、桜の写真を撮影しました。

■ 5月11日(土) 博物館周辺の自然撮影・5/18写真教室の下見 参加者: 6名

博物館の樹冠トレイル、生活実験工房などを中心に生き物の撮影を行いました。5月18日に開催された写真教室「海野和男の生きもの写真のススメ」の下見も兼ねて、当日のルート設定などを行いました。

■ 5月18日(土) 写真教室「海野和男の生きもの写真のススメ」への参加、サポート 参加者: 2名

写真教室での聴講、および午後からの撮影にも同行し、サポートや記録写真の撮影などを行いました。

また、今年度より、通常の活動に加え、大橋コレクションの整理作業のペースをあげるため、別途日を設けて活動することにしました。

■ 4月18日(木) 9:30～12:00 大橋コレクション整理作業 場所: 博物館研究交流室 参加者: 4名

およそ800枚の写真整理を行いました。

■ 5月16日(木) 9:30～12:00 大橋コレクション整理作業 場所: 博物館研究交流室 参加者: 4名

およそ1000枚の写真整理を行いました。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 108 名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■ 3月17日(日) 13:30～ 古琵琶湖発掘調査隊 総会 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 11名

活動内容: 古琵琶湖発掘調査隊の総会をおこないました。前年度の活動の中での問題点や、今後の活動について話し合いました。

■ 4月12日(金) 13:30～16:00 多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業の打ち合わせ

場所: 琵琶湖博物館 1F おとなのディスカバリー 参加者: 3名

活動内容: 今後の作業内容やスケジュールなどについて話し合いました。

■ 4月14日(日) 13:30～16:00 『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第七次発掘調査』に向けての勉強会 場所: 琵琶湖博物館実習室1名 参加者: 23名

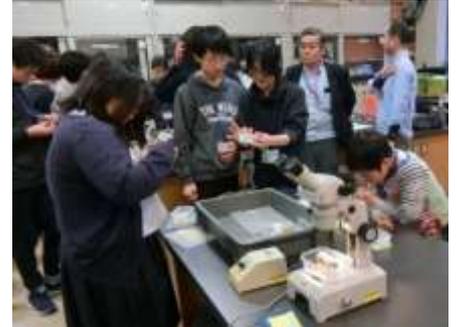
活動内容: 多賀町立博物館の糸本夏実学芸員に講師をお願いし、4月20日から始まる『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第七次発掘調査』に向け、勉強会をおこないました。発掘プロジェクトが実施されることになった経緯や、多賀の地質、発掘現場で採取した化石を一時保存する方法などについて学びました。また、採取した化石の位置を記録するための測定方法を実習形式で学びました。現場で採取した化石が、地層のどの位置の、どの深さから採取されたのかという情報も重要であり、測定記録を取るための実習を、メンバー達は、皆、真剣な表情で取り組みました。その後、化石を見つける目を養うため、化石に詳しいメンバーから化石の特徴などを皆にわかりやすく説明してもらい、植物化石や昆虫化石、貝化石の実物標本を手にとって観察したり、確認したりしました。メンバーそれぞれが期待と緊張感を持ち、第七次発掘調査に向け、しっかりと準備をすることができました。



総会の様子



化石の位置の測定方法を実習中



実物標本を観察して化石の特徴を勉

■ 4月20日(日)～4月30日(火・祝) 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第七次発掘調査

場所: 滋賀県多賀町四手 参加者(発掘調査期間中ののべ人数): 71名

活動内容: 今年も上記日程で『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト』が実施され、多くのメンバーが参加しました。このプロジェクトでは、古琵琶湖層の約180万年前の古環境を明らかにするため2013年から継続的に調査がおこなわれ、今回で7回目となります。発掘現場では化石の採取のほか、現場での化石の一次保存や化石の採取位置の測定など多くの作業がありますが、事前の勉強会で学んだことを活かし、メンバー一人一人が古環境調査をおこなっているという自覚を持ち、丁寧に作業をおこないました。恒例の、専門班の先生方による勉強会も毎日おこなわれ、幅広い分野のお話を聞くことができました。親子化石発掘体験のお手伝いや、微小な化石を探す作業用の土試料も採取しました。発掘調査に参加された多賀町立博物館や専門班の先生方、多賀町発掘お助け隊の皆さんと連携・協力しながら、調査した成果を180万年前の古環境の復元につなげたいと考えています。今回もメンバー達は日焼けした笑顔で無事に発掘調査を終えることができました。



発掘に参加した古琵琶湖発掘調査隊

【活動予定】

■ 日時: 5月17日(金) 13:00～16:00 多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業総会
場所: 琵琶湖博物館 実習室1

■ 日時: 5月25日(土) 13:00～16:00 多賀の発掘現場で採取された咽頭歯化石のクリーニング作業
場所: 琵琶湖博物館 実習室1



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

活動なし

【活動予定】

6月以降は未定



(10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 妹尾裕介、大槻達郎

2019年度、最初のイベント、「飛ぶタネと紙ヘリコプター作り」、大人も子どもも夢中になって作ってくれました。飛ぶタネの仕組み、何回みても不思議だなあ。さて、次回のイベントは6月の虹色傘づくりです。梅雨の時期にぴったりなイベントで、折り紙で傘を作ります。何色の傘を作ろうかな？

昨年度リニューアルオープンしてディスカバリールームもパワーアップしました。新展示と関連したイベントも考えていけたらと思います。

【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ	4月6日(土) 13:30-、14:30-	飛ぶタネと紙ヘリコプター作り	大人と子どもと一緒に模型を頑張って作りました。最後はみんなで飛ばして植物の不思議を学びました! 参加者25名、はしかけ3名



～メンバーからのメッセージ～Vol. 50

二階から落とすの(普段は絶対ダメなこと出来る!)快感!!やはり高さがあったから、面白い動きを見られたんじゃないかな～。また、やりたいですね。

柳原

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ	6月23日(日) 13:30-、14:30-	折り紙で虹色の傘作り	梅雨の季節に合わせて、折り紙を組み合わせた虹色の傘を作ります。(準備は10時集合)

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に妹尾・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう!

また、ザ! ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひぜひご参加ください。



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 35名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp (登録会員数: 36名) グループ担当職員: 山本綾美

【活動報告】

■ 4月13日(土) 里山体験教室 下見 参加者: 18名 (大人13名・子ども5名)

来週4月21日(日)の本番に向けての手順の確認をし、春の植物・山菜の確認をしながら、山菜を採ったり花見をしながら、送電線に沿ってはしかけの森をぐるりと周りハイキングをかねた下見となりました。

子どもたちはシロバナタンポポやジゴクノカマノフタ(金瘡小草(きらんそう))を摘んだり、ワラビ、ゼンマイなどを大人は摘んで、春の植物観察を楽しみました。はしかけの森に戻って、子どもたちはしばらく来ていなかった秘密基地の整備をしました。柳原さんがたき火のところにもう1台ベンチを提供、本番の里山整備で使う竹札の準備をしてくれました。柳原さんと竹谷さんは桜の芽が育つよう持ち帰りました。(松里)



■ 4月21日(日) 里山体験教室 本番 参加者: 42名

暑いくらい良く晴れて、楽しい活動になりました。朝10時スタートで植物観察をしながら散策をしました。いろいろな植物の話をしたり、野草を摘みながら、春の里山散策を楽しみました。活動拠点のはしかけの森に戻って、採取した野草の解説をしたところ、一般参加者の皆さんがとても熱心に聞いてくれました。はしかけ里山の会が、採取した野草をさっそくてんぷらにしてくれたのでみんなで試食をしました。午後は、里山という環境についてのお話と、里山整備を行いました。そのあと、今後の活動で使う木の名札を作成しました。参加者の方から、初めての里山歩きと摘んだ野草を実食する体験はこれからも永く記憶に残ると思います、とうれしい感想をいただきました。(山本)



■ 4月28日(日) 山菜パーティ

連休序盤の4月28日に恒例の山菜パーティを開催しました。場所は昨年と同じ野洲市の野洲川北流跡自然の森です。地元のボランティアグループが竹の伐採整備を行って落葉樹主体の森を作っており、日当たりが良くなった森には豊かな植生が回復して、ウド、ウコギ、タケノコ、サンショウ、カンゾウ、カキドオシ、ミツバ等々様々な山菜や木の芽が採集できました。当日は天気にも恵まれ、採集した山菜を天ぷらにして思う存分味わいました。また、森の探索では倒木に乗って遊んだり、“ミニ三上山”と名付けた丘に登って展望を楽しんだりしました。食事の後は木の間にハンモックをつるし、子どもたちには大人気でした。緑の自然を堪能した春の一日でした。(宮本)



【活動予定】

■ 6月 潮干狩り、7月6日(土) 里山体験教室下見、7月15日(月祝) 里山体験教室本番



山々の色も新緑から濃い緑へと移り、タニウツギ、カマツカが咲き始めました。

【活動報告】

■ 4月14日(日) 「森林公園 くつきの森」へお出かけ観察会 参加者: 4名

お昼前からぱらぱらと雨が降り始め、早く切り上げたつもりが、結局14:30ごろになってやっと解散。その後、各自お弁当を食べて帰宅の形となり、苦笑でした。

この日は、昨年から見続けてきているカエデの新芽、花を見る目的で遠出しました。ハナノキは開花が終わっていて落ちている花を観察(下見をした4月5日に満開状態、樹全体が赤く見えるほどでした)。ウリハダカエデ、ウリカエデはちょうど冬芽から芽吹き、ウリカエデの早いものは一部開花。カジカエデは、葉と種子の形を落ちているもので観察。カラコギカエデ、テツカエデ、コハウチワカエデ、イロハモミジは、まだ冬芽のまま。メグスリノキはわからずじまいでした。

その他、早咲きのヒ(緋)ザクラ、シデ(雄花雌花)、クレソン、コウヤミズキ(花満開)、ヒオウギ(葉、実、種子)、アメリカフウの棘とげの実(形の不思議さ、タイワンフウの実とのちがいがいい)などを見て歩きました。

5月11日(土)は、「MieMu(三重県立博物館)企画展『ボタニカル デザイン』」に合わせて、お出かけ観察会。布谷知夫さんに講師をお願いし、はしかけ全体へよびかけるお出かけ観察会10:30~15:30を行いました。森人メンバーとも合流し、参加者15名。JRの遅れや高速道路の事故渋滞がありましたが、みなさん無事に参加できました。三重県の自然や文化については常設展にくわしくあるので、そちらも合わせて各自見学となりました。

午後は、屋外で観察。まず、三重県に生息するイヌナシ、シデコブシ、ハナマツメ、ハマボウフウ、トキワマンサク(花)を観察。花については、写真で紹介する形をとりました。指定を受けて守られているもの、絶滅に瀕しているもの、と、それぞれ状況が違います。その後、ナワシログミ(実、種子)、シリブカガシ、ツクバネガシ、クヌギ、コウゾ、キハダ、タニウツギ、オオイタヤメイゲツ(種子)などを観察。多くの竹が入り込んできた雑木林を、「みんなで作るミュージアムフィールド」生き物グループの会員の方達が、博物館の準備段階で何度も作業をして残す樹を決めて(クヌギ、コナラ、アズキナシ、カクレミノなど)今の森になっていることも知りました。常設展にある貝や蟹も採りに行って集めたという話も以前来たことがあり、「みんなで作る」の意味をあらためて感じました。

【活動予定】

■ 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。

外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定です。このニュースレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。

■ 6月2日(日) 調べたいものを持ち寄って調べよう

場所: 琵琶湖博物館 実習室1または2、またはラボ 時間: 13:30~16:00

■ 7月、8月 未定(6月に相談後、決めます)

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(ˆoˆ)/
当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



【活動報告】

たんさいぼうの会第59回総会を、4月6日(土)に開催しました。まず13時から、琵琶湖博物館交流室のたんさいぼうの会使用スペースの整理を行いました。データの整理などを事前に済ませていたので、短時間で片付けました(参加者3名)。続いて14時から、研究交流室で本会議を行いました(参加者13名)。会計報告、今年度の活動方針の確認、各会員の近況(研究)報告の後、以下の2つの勉強会が行われました。

- ・河口干潟の水と堆積物の境界に生育するケイソウ種分布と環境要因との関係(山本真里子)
- ・何を知るためにpHを測るのか(三田村緒佐武)

最後に、遅れてきた新入会員の自己紹介を行って、16時過ぎに本会議を終了しました。その後、草津川跡地に花見に行きました。数年ぶりに、ソメイヨシノの見頃に日程を合わせることができました。

富小由紀会員の初めての主著論文となる多賀町四手の蒲生層(前期更新統)から産出した化石珪藻の報告は、ゲラ校正を終えて、あとは出版を待つばかりとなりました。これを書いている時点ではまだ出版されていませんが、遅くとも6月中にはJ-Stageからオンライン出版されると思います。

富小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子. 2019. 古琵琶湖層群蒲生層最上部から産出した化石珪藻フロラ. *Diatom* 35

(二重線はたんさいぼうの会会員、単線は琵琶湖博物館職員)

他の研究のうち、藤前干潟(名古屋市)の珪藻に関する論文を投稿したところ、焦点を絞り直して大幅修正せよとの判定だったので、現在、データの一部を取り直すなど作業を進めています。瀬田公園(大津市)の珪藻については、一通りの同定を終え、現在、写真の撮り直しをしています。藤ヶ鳴湿原(岡山市)の珪藻も、先日、全ての同定を一通り終えることができました。他に、愛知県の鈹質土壌湿地群などの珪藻の研究を進めています。

【活動予定】

珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう」を、愛知県水産試験場と共同で、7月20日(土)と8月3日(土)の二回に分けて行います。今回は生きた珪藻の研究法ということで、底泥中の珪藻密度のMPN法による評価と、ヘマトキシリン核染色法による細胞の生死判別を学んでいきます。はしかけ登録者で参加ご希望の方は、上記代表アドレスまでご連絡ください。

その他、これまでに採集してきた珪藻試料の整理、写真撮影、同定を分担して個別に進めていきます。また、珪藻電子図鑑の検索ページの作成を進めていきます。こうした活動にご関心のある方は、上記代表アドレスまでお気軽にご一報ください。



(14) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁、下松孝秀

ゴールデンウィーク後半から、ようやくこの季節らしい気候になってきました。多くの田んぼで田植えが終わり、水の中は生きもの達でにぎやかになってきました。私たちのグループの活動も、これからが本番です。昨年度までに滋賀県内におけるエビ類の分布調査が一段落したことを受け、本年度は、エビ類の飼育に取り組むなかで、エビ類の生態をより詳しく明らかにするという新たな目標を立てました。今まで以上に、メンバーそれぞれの創意工夫が試される一年になるかもしれません。

【活動報告】

■ 4月23日(日) 13:15~15:55 場所: 琵琶湖博物館交流室 参加者: 5名

エビ類をはじめ、微生物の豊富な飼育経験をもつ楠岡さんに、エビ類を飼育するためのノウハウを教えてくださいました。

(1) グリーンウォータ

飼育するための水として、緑藻類が豊富な水を作ります。2~3日汲み置いた水道水を45~60cmの水槽に入れ、田んぼやため池で採取した「タネ水」を加えて、室内北側の窓際に置きます。水を適度に攪拌する目的で、金魚や小型のフナを2~3匹入れておくと、1か月程度でグリーンウォータができるとのことでした。

(2) エビ類の餌

ホウネンエビには、浮遊性の緑藻類が最適ですが、(1)で作ったグリーンウォータを毎日与えれば十分とのことでした。金魚やフナを入れてグリーンウォータを作ると、水槽の底に食べ残しの餌や排泄物でへドロ状のものがたまりませんが、これがカイエビ類を飼育するときの良い餌になるようです。カブトエビ類には動物質の餌が必要なので、田んぼからミジンコ類をすくってきて与えるとよいようです。

(3) 飼育時の注意事項

水質が悪化すると飼育容器内のエビ類が一斉に死滅することがあるので、大きな水槽で多数の個体を飼育するのではなく、小さな容器を多数用意して、それぞれには少数の個体を入れるようにします。ただし、小さい容器は水温が変化しやすいので、直射日光の当たらない北側の窓際に置くとよいようです。

筆者の自宅でも、早速グリーンウォータ作りを開始しました。少しずつ、水が緑色になっていく様子がわかります。



【活動予定】

- ・5月26日 調査準備会(13:30~16:30 琵琶湖博物館実習室1)
本年度も継続して実施する瀬田・石山寺地区のカブトエビ類の調査の準備を行います。
- ・6月9日 瀬田・石山寺地区におけるカブトエビ類の調査
集合場所、分担などは、5月26日の準備会で決定します

(山川栄樹)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」実施中>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、ついに来る3月から「タンポポ調査・西日本2020」の調査が始まりました！琵琶湖博物館は、前回に引き続いて滋賀県の実行委員会を引き受けることになりました。

<はしかけメンバー募集中！>

2019年3月から調査が始まりました。調査期間は2019年2020年ともに3月～5月です。調査中から終了後にかけて、滋賀県のサンプルの整理をします。興味のある方は、上記メールアドレスに連絡をくださるか、博物館で学芸員の芦谷に声をおかけください。

<「タンポポ調査・西日本2020」の調査票、2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書を配布します！>

「タンポポ調査・西日本2020」の調査票と前回(2015年)の結果のチラシを、今年の調査終了後も「おとなのディスカバリー」の一角に置かせていただく予定です。ご希望の方はお立ち寄りください。また前回2015年の方告訴も残部が若干ございます。本来1000円いただくものですが、希望者には差し上げます。グループに登録していない方でも、上記アドレスに連絡をくださればお渡しします。

【活動報告】

2019年4月13日(土)と20日(土)の2週連続で、琵琶湖博物館において「タンポポ調査説明会」を開催しました。2日とも天候に恵まれ、一般の参加者は各回数数名程度でしたが、大変和やかに楽しくタンポポ調査を行いました。はしかけのメンバーにも、タンポポの見分け方などを現地で説明していただきました。

【活動予定】

現時点では予定はありません。



(16) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子

2019年度最初の活動、4月のちこあそ、つい先日実施した5月の活動の様子を報告します！

◆4月

新しい年度になり、昨年度まで参加しておられた子どもも多くが幼稚園や保育園に行かれ、少しすくないちこあそになりました。しかし、春の息吹がたくさん見られる生活実験工房。バンダナおじさんが、裏の竹が増えすぎるといけないので、タケノコを堀るといいよと教えてくださり、みんなでスコップ片手にタケノコ堀りをしました。最初は草に囲まれて見えないのですが、足で探ったり、落ち葉を除けてみると、かわいいタケノコの頭が見えていました。しかし、そこからが大変！周りの土を掘り・掘り、根本までたどり着いたら、タケノコをエイヤッとおこします。取れたタケノコは早速、あく抜きをして、食べてました。春の喜びを感じるちこあそでした。

また、田んぼの用水路を網でさらってみると、ザリガニやウシガエルに交じって、ヤゴも見つかります。ドロの中で、まだ少し春を待っている様子の生き物たちを見つけることもできました。

◆5月

緑のくすり箱さんが、ヨモギを使ってアロマオイルづくりをされていたので、そのお隣を借りて開催させていただき、にぎやかになりました。ヨモギのいい香りを楽しんで、ガチャコンポンプで涼を楽しみ、野イチゴを摘んで食べてみたりと初夏を感じさせる中でたっぷり楽しみました。

子どもの参加は2名と少なかったのですが、2才同士、お昼が過ぎるころには、子どもだけが分かる電波で会話しているようで、だんだん仲良くなっていきます。基本はお母さんと一緒なのですが、小さな子ども同士の関わりがだんだんと見えることがとても嬉しい時間でした。みんなで、6月にはみんなでサツマイモやジャガイモの苗を植えようとして、ちこあそ活動をみんなでつくっています。

6月は第3水曜日の19日を予定しています。畑にお芋を植えますよ。秋に収穫できることを期待して。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
4月	4月17日(水) 10:00-14:00	はっぱも石も、水も、お日さまも、カエルも、バツタもみーんな不思議の宝物 ちこあそ4月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども4人、保護者3人、学生1名
5月	5月15日(水) 10:00-14:00	田んぼに水が入って、田植えが始まりました。カエルも大喜びで鳴いてます。 ちこあそ5月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども2人、保護者2人、学生1名

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
6月	6月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ6月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。8月はお休み ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

◆4月の様子



バンダナおじさんと、水路のヤゴを調べてみました。



工房ウラで、タケノコ掘り中。

◆5月の様子



2才の子どもも、ガチャコンポンプは「呼び水」が必要だと、分かっているんですよ。



お母さんと、綿繰り遊び。くるくる回すと綿が出て来るのが楽しいんです。昔の子どもも、こうやって遊んでたのかな。



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■ 4月29日(月) 参加者: 8名

講師の方2名を迎えスマートフォンを使った顕微鏡観察の講習やプランクトンについての話を伺いました。スマートフォンを使った顕微鏡観察の講習は主に実習などに使えそうなもので主にベテラン陣の方々は興味深々の様子でした。プランクトンは講師の方や会員の方が持ってきた瀬田川と竜王のため池のサンプルを観察しました。

■ 5月18日(土) 参加者: 1名

生活実験工房の田んぼのワムシを観察しました。田んぼには水が入ったばかりですがすでにたくさんのワムシがいます。特に泥の上にはカシラワムシ、ツキガタワムシ、テングワムシ、ヒルガタワムシの仲間が見られました。以前に採集・観察したとき撮影や標本作りに失敗した種類があるのでそれらを主に探しました。

【活動予定】

次回開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(18) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 由良嘉基・奥野知之

今年度最初のわくわく探検隊は、恒例の「春の草花でしおり作りを作ろう！」です。今年の春は、暖かくなったり寒くなったりと気まぐれな気候ですが、今日はよい天気にも恵まれた日の活動になりました。

【活動報告】

■ 5月11日(土)「春の草花でしおり作りを作ろう！」参加者: 28名

はじめに、博士から春の草花についてのお話をいただきました。「春の草花と友達になろう」という言葉が印象的でした。

次に、屋外へ出てしおり作りを使う草花の採集を行いました。玄関付近を中心にたくさんの草花を集めることができました。みなさん袋に入りきれないくらいの草花を集めていました。

最後に、しおり作りを行いました。水分を抜くために電子レンジを用いるので、やけどには細心の注意をはらった活動でした。家族みんなで作品作りを行い、一人2枚程度のしおり作りをして持ち帰っていただきました。みなさん春の訪れを感じるよい機会になりました。

びわたん (おんちゃん)



活動予定】

■ 6月8日(土)

「石ころ de アート！」

■ 7月13日(土)

「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」



(19) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子

【活動報告】

■ 3月30日(土) 参加者: 6名

シジュウカラ(鳥類)の皮むき、ウシガエルの骨のクリーニング、トンビの除肉を行いました。

■ 4月21日(日) 参加者: 6名

シカの肢の解剖、トンビの除肉、ハクビシンの骨の整理、フナの骨のクリーニングを行いました。

■ 4月29日(月・祝) 参加者: 3名

トンビの皮むき、イタチの除肉、イタチの皮むきを行いました。

■ 5月11日(土) 参加者: 3名

トンビの解剖、ネコの解剖、フナの骨のクリーニングを行いました。

今回行ったネコはどうやら腐敗が進行していたものを、冷凍して置いてあった様子で、解凍してみると強烈な腐敗臭が活動部屋に充満する事となり、普段の活動でなれているであろうメンバーでも、この日はひさびさの強烈な臭いに我慢しながらの活動となりました。



▲組み立った状態で仕上げたフナの頭骨

【活動予定】

6月、7月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■ 4月17日(水) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 12名

- ・ハーブのシフォンケーキ作りとハーブ入りせんべい作り

今年は体によいハーブを使ったお菓子作り方について交流したいということで、ハーブのシフォンケーキ作りと、ハーブ入りせんべい作りを企画し、実施しました。ローズマリー、よもぎ、セリ、薺の薹、陳皮、あおばな、カレンデュラ、紅茶、緑茶、を使って8種類のシフォンケーキを作ってみました。お店では売っていない初めての味の体験で、その中でも薺の薹が人気ありました。シフォンケーキ作りの注意点は、卵白の泡立を10分以上する事でした。ハーブ入りおせんべいは砂糖を減らすと綺麗な色で焼けないし、人気あった薺の薹を沢山入れすぎて、苦いおせんべいになり不人気で、ローズマリーが美味しかったと思いました。

(参加者の感想)

- ・シフォンケーキさっそくまた作ってみたいです。薺の薹のシフォンケーキがとてもおいしかったです。
- ・どれも他にはない味で、楽しませていただきました。
- ・少し慌ただしくなりましたが、8種類のシフォンケーキが楽しめました。100均の型が手に入り、応用も自由自在ということがよくわかりました。



■ 5月15日(水) 場所：生活実験工房 参加者：12名

・よもぎの蒸留とアロマウォーターでルームスプレー作り

琵琶湖博物館では、展示用にアランビック蒸留器を使って、植物の蒸留を行い、芳香蒸留水（アロマウォーター）の採取を行っています。今年度は、緑のくすり箱も一緒に協力させて頂くことになりました。

第1回目として、よもぎの蒸留を行いました。5月はよもぎの香りがよく、これまで緑のくすり箱でも、よもぎを使った活動を行ってきました。ルームスプレーは、一般の方にも参加していただき、よもぎの蒸留水に、エタノールに溶かしたラベンダー、レモンの精油も加えて出来上がりです。リラックスできる香りのよもぎのスプレーになりました。お子さんの参加もあり、楽しく活動することが出来ました。

・よもぎ餅とよもぎゼリー作り

よもぎのお餅作りとゼリーを作りました。最初によもぎの効能などを資料で確認しました。よもぎ餅は、中身が餡子または黒砂糖、お餅のコーティングに、きなこや黒すりごまを使いました。よもぎをベースに、いろんな味にチャレンジしてみたかったのですが、思いのほか、黒砂糖が溶けなかったのは反省です。黒すりごまも、しっかりコーティングできるとよかったです。うまく付かなくて、残念でした。お餅とゼリーを食べながら飲むお茶を入れましたが、よもぎ茶とクロモジ茶を用意しました。いつもは、お湯を沸騰したところに茶葉をいれているのですが、色々調べていて「60℃くらいがよい」と書かれていたので、どちらも沸騰したものをそれくらいの温度にさげて入れました。飲まれた方の第一声が「まるやか」「いつもと違う」でした。沸騰させると苦み？あくの様なものがでてしまうのかもしれませんが。確かに嫌みがなかったように思います。

(参加者の感想)

- ・水蒸気蒸留装置、面白かったです。
- ・よもぎ餅、おいしかったです。特に黒砂糖の中に入れるのはとても驚きで、よいアイデアだなあと思いました。もう少しお餅が熱い間に入れると黒砂糖が溶けるのですね。やってみます。

<よもぎの蒸留>



<よもぎ餅とよもぎゼリー>



【活動予定】

■ 6月25日(火) 場所：染色工房(詳細は後日連絡)



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

- 3月10日(日) 12時30分～ はしかけ登録講座でのPR、今後の活動の相談 場所: 生活実験工房 参加者: 7名
今後の活動計画の相談、はしかけ登録講座で活動紹介をしました。



活動の様子

- 4月20日(土) 10時～15時 春の湖北における昆虫採集・観察

場所: 滋賀県長浜市旧余呉町付近、福井県南条郡南越前町 参加者: 8名

当日は天気にも恵まれ、湖北の春を十分に満喫してきました。まだ、虫の季節としては早いようなのですが、この時期にしか見られない種類もあり、それなりに成果はあったのではないかと思います。



活動の様子



活動の様子



活動場所の様子

【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。
野外調査は、県内各地で分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。
ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。(文責: 梶田)



【活動報告】

■ 3月23日(土) 10:00~12:00 樹名板の設置、来年度計画 場所: 研究交流室、樹冠トレイル

参加者: (会員) 5名 (見学者) 1名 (博物館職員) 林

内容: ①修理工作室で作成いただいたアクリル板に樹名シールを張り付けて作成した16種類・19枚の樹名板を樹冠トレイル内に設置した。②来年度計画の粗案を作成した。

■ 4月13日(土) 13:30~16:00 動物観察用自動カメラ設置と樹木調査 場所: 生活実験工房、屋外展示の森

参加者: (会員) 4名 (博物館職員) 林、中村

内容: ①動物撮影自動カメラの計画・・・樹冠トレイル建設前と比較できるように設置場所を決め、日中に人が写る場所は夜間のみ撮影する設定とし4か所に設置した。6月8日ごろまで実施する。②樹冠トレイルの樹木で昨年度植栽した23本と実生の木2本の樹高と幹径の測定を行った。

■ 4月27日(土) 10:30~15:00 外部観察会 場所: 奈良市 春日山原生林 参加者: (会員) 4名 (博物館職員) 林

内容: シイ・カシ類などの常緑広葉樹を中心にした原始性を保った森の見学で近鉄奈良駅⇒奈良公園⇒春日山遊歩道⇒若草山⇒北ゲート⇒近鉄奈良駅のコースを散策した。春日大社周辺には8世紀にイチガシを優占種とする照葉樹林が広がっていたとのことで今なおイチガシの大木が多い。また春日大社の社紋であるフジの古木が所々で薄紫の花を咲かせていた。原生林は全コースの1/4程度を歩いただけであるがシイ・カシ類、モミ、スギなどの大木がうっそうと茂り古くからの信仰の山であったことをうかがわせる。その他の木本ではカゴノキ、シロダモ、イヌガシ、ホソバタブ、サカキ、アセビ、シキミ、クロバイ、カヤ、イヌガヤ、ナギなどの常緑樹とムクノキ、モミジ類、シデ類、ムクロジなどの落葉樹が生えていた。草本はウラシマソウ、ミヤコアオイ、キランソウ、チャルメルソウ、タチツボスミレ類、ギンリョウソウなどが花を咲かせていたが種類は少ない。鹿が食べないシダ類は多かった。若草山では鹿の被食が原因と思われるが有毒なワラビ類やレンゲツツジが目立ちムラサキサギゴケやタンポポが地面に張り付くように生え小さな花を咲かせていた。まるで新種のようなものである。



イチガシ



原生林内

■ 5月11日(土) 10:30~15:30 MieMu 見学会 場所: MieMu (三重県立博物館) 津市 参加者: (会員) 6名

内容: はしかけ植物観察会に参加しMieMu 前館長の布谷先生の説明を伺いながら午前には企画展「ボタニカル・デザイン」の見学、午後は博物館の屋外の樹木の観察を行った。「ボタニカル・デザイン」のテーマは植物の形=デザインである。植物は葉茎、花、実、種などを生きるために最も適した形にデザインしている。その形とともに衣服や陶器などに人の暮らしに取り入れられた植物の形にも焦点が当てられている。屋外では三重の希少な植物としてマメナシ、シデコブシ、ハマナツメ、ハマボウ、トキワマンサクが植栽され間近で観察できる。里山ゾーンではシイ・カシをはじめ人が生活に利用してきた種々の樹木が植栽されている。例えば食料(カキ、トチノキなど)、薬用(キハダなど)、紙の原料(コウゾ)、材(ツゲ、キリなど)、ウルシなど。博物館を作る前の植生をできるだけ残すよう配慮された区域では暖温帯の沿海部に見られるシイ、タブノキ、クスノキなどの大木が茂っていた。改めてこの会を計画いただいた、はしかけ植物観察会と一日中付き合っていたいただいた布谷先生に感謝いたします。



【活動予定】

- ◎5月25日(土)13:30~16:00 場所：生活実験工房 内容：動物カメラのメンテと森の観察など。
 ◎6月8日(土)13:30~16:00 屋外の森ガイドツアー 場所：生活実験工房、屋外の森
 ◎6月15日(土) 油日湿原観察会 詳細は計画中

- ★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
 ★参加を希望される方は 森人（もりひと）hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井克樹

年度が替わり、旧年度のグループ担当職員だった大槻達郎が新たなはしかけグループ「海浜植物守りたい」の担当者となったことから、この琵琶湖梁山泊グループの担当職員を退くことになりました。4月からは、担当職員は中井克樹に代わりました。よろしくお願ひします。まずは、これまでと同様、メーリングリストを活用した情報交換をしていきたいと思ひます。

【活動報告】

■ 4月13日(土) 9:40~17:15 場所：琵琶湖博物館 参加者：6名

滋賀県立米原高等学校地学部(部員5名+坂本大介先生)が琵琶湖博物館において、現在研究を進めている姉川流域にかつて存在した堰止湖に堆積したと思われる地層中から見いだされた珪藻化石について、これまでと同様、大塚泰介学芸員が対応して、種の同定の確認と写真撮影を行いました。

■ 5月19日(日)

琵琶湖の外来植物プランクトンのミクラステリアス・ハーディの生態学的特性を研究するため滋賀県立石山高等学校の川合彩音さんが、5月26日(日)に東京・幕張メッセで行われる「日本地球惑星科学連合2019年度大会」で発表するにあたり、大塚泰介学芸員のもとへ相談に来ました。培養条件とはいえ、ミクラステリアスの増殖速度はかなり遅い模様で、これからも培養実験を続けていきたいとのことでした。

【活動報告】

■ 4月21日(日) 13:30～ 湖上観測の実施計画について検討

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 5名 (はしかけ3名 学芸員1名 協力研究者1名)

観測機器製作のエキスパートである西勝也さん(もと京都大学理学部助手)をお招きし、何を目的にどのような観測をする場合にはどのような道具が必要かというようなことを議論しました。

西さんは、最近小学生相手の講座に関わったことがあって、そこで水温計を自作させることを計画したがヤメになったそうです。そのために準備したセンサー部分の完成品や半製品をお持ちいただいたので、まずそれをお預りして、バケツの水などでいろいろ測ってみたりして感触をつかむことから始めてはどうかという話になりました。

そこで、釣り船をお持ちのメンバーにセンサー一式をお預りいただいて、まず個人で試していただくことになりました。

(5月10日に実際に湖上へ出て試してみられたそうです。)



【活動予定】

■ 日程調整中(5月中を目途に) 今後の活動方針について



(25) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 楊 平

【活動報告】

■ 3月8日(金) 里山景観としての湖西、マキノ町周辺調査 参加者: 5名

郷土文化保存伝習施設マキノ資料館を訪問し地域の歴史、文化継承状況を見聞後、付近湧水現地調査を実施した。

■ 3月15日(金) 里山景観としての湖東、守山地区の周辺調査 参加者: 5名

金森湧水公園を中心に周辺地域の湧水場所の現地調査を実施した。

■ 4月9日(火) 里山景観としての湖西、高島地区周辺調査 参加者: 5名

マキノ町森西地区の棚田の調査及び周辺湧水現地調査を実施した。

■ 5月17日(金) 里山景観として湖北、米原、長浜木之本大音地域の周辺調査 参加者: 4名

米原地区は、世継の「かなぼう」周辺、大音地区は、「いかぐの糸」原糸の生まれる過程の現地調査を実施した。

(本稿の執筆者 小篠)



【活動報告】

■ 4月9日(火) 9:30~12:00 参加者:6名

- 前回(3月21日)に引き続き拡張した部分の雑草除去と、保護区内の雑草及び「チガヤ」の除草
- ・宇野さんの指導を受け、移植ごてでチガヤの地下茎の近くを深く掘り、地下茎を引っ張るように全体を抜いた。(途中で地下茎がおれることもあるが、全体が抜けると長いもので1m位のあり気持ちが良い。)
- *ハマエンドウの様子 太陽があたるからか前回より葉が大きくなっていた。チガヤが無くなったためか、小さく見えたが拡張した保護柵の近くまで広がっている部分もある。
- *ハマゴウ 前回と変わらず枯れたまま。

午後から佐波江浜及びマイアミ浜の様子を観察した。
佐波江浜

- *タチスズシロソウが咲いていた。昨年と同じ場所。昨年咲いていた道路の歩道脇にも今年も咲いていた。
- ・昨年よりは背も低く、小さい。多年草はあまりない。緑の葉もあるが、赤茶けた葉があるものが多い。
- *ハマヒルガオ 3月末には見られなかったが、今はあちこちに葉を出していた。台風でむき出しになっていた茎に砂が適度に覆われ拡大している。今年は昨年よりも多いように思われる。昨年より葉は厚く、色は濃い。



4月9日撮影
昨年とよく似た道路側の歩道脇に咲いていた
タチスズシロソウ

マイアミ浜

- *タチスズシロソウ 昨年に比べ、全体的に少なく一年草が多い。海洋センターの建物の東側と西側にあった多年草はみつからなかった。(草刈りでなくなったか?)
- ・昨年気が付かなかったビーチコート(網)のそばに多年草のタチスズシロソウがあった。場所は違うが昨年一年草を確認している。
- *ハマヒルガオ 今年とは昨年と比べ非常に少ない。昨年広がっていた場所に今年は見当たらない。葉が出だしたところで小さい。

■ 4月22日(月) 9:00~12:00 場所:近江舞子内湖・中浜・北浜 参加者:3名

- ・昨年確認した近江舞子北浜の帯状のタチスズシロソウを探したが見つからなかった。
- ・昨年と比べると少ないが、園地前の道路脇やマンホールふたの上にもタチスズシロソウがあった。注意深く見ていると割と育成していることが分かった。
- ・浜に群集している所はなかったが、便所(公衆トイレ)建物(北浜事務所)の周りには群集していた。
- ・ハマヒルガオは全体に少ない。
- ・近江舞子の内湖前のハマエンドウは、昨年と変わらないが新海浜と比べると葉の大きさも大きく色も濃い。つるも出ていた。木の下ではあるが太陽がたっぷり当たっているためと思われる。
- ・保護区内のハマエンドウは、少ないが生垣の下や、道路側の石垣には昨年と比べると今年は多い。花が数輪咲いていた。
- ・昨年4月22日に観察に出かけているが、30年9月4日の台風21号、9月30日の台風24号の被害のため浜の様子が変わっていた。浜が狭くなったように思われた。松の木等が根っこを出だしたり倒木していたり、琵琶湖の波打ち際で倒木している木もあった。
- ・ところどころ、重機で整備している所もあった。
- ・記憶があいまいで確認に苦労した。周りの目印になる風景を撮影すべきであった。



北小松水泳場(松の木の下に)

■ 5月7日(火) 9:30~12:00 参加者:4名

*北西の風が強く寒い中、作業を開始した。波も高く打ち寄せる波は濁っていた。
保護区内の雑草及び「チガヤ」の除草
今回は大槻先生にハマエンドウの近くにいる昆虫等を教えてもらいながらの作業になった。

*ハマエンドウの様子

- ・前回に比べ生育範囲が広まり花も一面に咲いていた。
- ・宇野さん曰く、現在500近い花が咲いており、今年は1,000位咲きそうだということ。
- ・つぼみもあれば、種ができているものもあった。(種は大槻先生が見つけた。)
- ・枯れているものも一部あった。(種をつけたものは順次枯れていく?)
- ・ハマエンドウにも根粒菌がついていた。(海岸のものより大きく共生している)
- ・花に穴が開いているのがあった。(熊蜂が蜜を吸うために開けたものらしい。)

*ハマゴウ 枝から新葉が出ていた。

*ハマヒルガオ 葉は広がっているが花は咲いていない。ちなみに去年は5月6日に花を確認している。



【活動予定】

■ 5月20日(月) 和田浜県外研修

■ 5月27日(月) 9:30~ 琵琶湖博物館の職員見学 場所:新海浜

■ 6月4日(火) 9:30~

3. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房の先日の田植え体験は、晴天に恵まれ、百名を超える方の参加をいただき無事終わることができました。今後の予定ですが、7月は昆虫採集、9月は稲刈りです。皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員:下松 孝秀

【活動予定】

開催時間 10:00~12:00 (受付9:30~) 場所:生活実験工房

各自、長靴、着替え等をご用意ください。

7月14日(日) 昆虫採集

9月8日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)

10月6日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

4. その他の事項

(1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなあって、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「https://www.biwahaku.jp/」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

(2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

(3) 名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的できません。

(5) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（**社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923**）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。